

【地域自主防災組織防災計画(雛形その1)】

〇〇地域自主防災会防災計画

1 目的

この計画は、〇〇〇地域自主防災会の防災活動に必要な事項を定め、もって、地震その他の災害による人的、物的被害の発生及びその拡大を防止することを目的とする。

2 計画事項

この計画に定める事項は、次のとおりとする。

- (1) 自主防災組織の編成及び任務分担に関すること。
- (2) 火災予防その他の災害予防に関すること。
- (3) 防災に関する知識の普及・啓発に関すること。
- (4) 防災活動に必要な資器材の整備等に関すること。
- (5) 防災訓練の実施に関すること。
- (6) 災害発生時における情報の収集連絡、出火防止、初期消火、救出救護、避難誘導及び給食給水等応急対策に関すること。
- (7) 要配慮者に関すること。
- (8) 避難所の運営に関すること。
- (9) その他必要なこと。

3 自主防災組織の編成及び任務分担

災害発生時の応急活動を迅速かつ効果的に行うため、また平常時の活動をより円滑に行うため次のとおり防災組織を編成する。【編成図(例)】【役員一覧表(例)】

4 防災知識の普及・啓発

地域住民の防災意識の高揚を図るため、次により防災知識の普及・啓発を行う。

(1) 普及・啓発事項

- ア 防災組織及び防災計画に関すること。
- イ 災害についての普段の心得や知識に関すること。
- ウ 地域周辺の環境に合った防災知識に関すること。
- エ その他防災に関すること。

(2) 普及・啓発の方法

- ア パンフレット、ポスター等広報資料の配布、回覧、掲示。
- イ 座談会、映画会、講演会、起震車による地震体験会等の開催。
- ウ パネル、看板等の展示。

5 地域の災害危険

災害予防に資するため、次により地域の災害危険箇所の把握を行う。

(1) 把握事項

- ア 危険地域、区域等
- イ 地域の災害履歴、災害に関する伝承

(2) 把握方法

- ア 地域防災計画
- イ 座談会、講演会、研修会等の開催

ウ 災害記録の編纂

6 防災訓練

大地震等の災害の発生に備えて、情報の収集・伝達、消火、避難等が迅速かつ的確に行えるよう、次により防災訓練を実施する。

(1) 訓練の種別

訓練は、個別訓練・総合訓練及び図上訓練とする。

(2) 個別訓練

- ア 情報連絡訓練
- イ 消火訓練
- ウ 救出救護訓練
- エ 避難誘導訓練
- オ 給食給水訓練
- カ 避難所運営訓練

(3) 総合訓練

総合訓練は、2以上の個別訓練について総合的に行うものとする。

(4) 実際の災害活動に備えるために行うものとする。

(5) 訓練実施計画

訓練の実施に際しては、その目的及び実施要領等を明らかにした計画を樹立する。

(6) 訓練の時期及び回数

- ア 訓練は、春・秋の火災予防運動期間中並びに「防災の日」周辺を目処に実施する。
- イ 訓練は、総合訓練にあつては年〇回以上、個別訓練にあつては随時実施する。

7 情報の収集連絡

(1) 災害が発生した場合に、迅速に正確な災害情報や被害状況を把握する。

(2) 地震のときは、出火防止を呼びかけるとともに、災害の発生場所を知らせ、住民に協力を求める。

(3) 防災関係機関の行う秩序維持のための活動に協力して、デマやパニックの発生を防ぎ落ち着いて行動するよう呼びかける。

(4) 学区自主防災会との連絡調整を行う。

8 出火防止、初期消火

(1) 出火防止対策

ア 火災予防その他の災害予防

地域内には、火災などの災害の発生や拡大の要因となるものがあるため、防火の心得など火災予防を重点とした防災知識の普及を図るとともに、地域の安全点検、家庭の安全点検等を実施する。

(イ) 地域の安全点検

地域環境の防災安全化を図るために実施する。

a 主な点検項目

- (a) ブロック塀や門柱は安全か
- (b) 溝などはつまっていないか

- (c) 燃えやすいものや、たき火などが放置されていないか
 - (d) 消火や避難のさまたげになるものはないか
 - (e) 地域内の消火器などは使える状態か
 - b 点検結果の検討会等の開催
点検実施結果の検討会、地域の防災問題及び安全対策についての会合を開催する。
 - c 実施時期
火災予防運動期間、防火点検日、防災の日、雨期前など、点検項目に応じて実施する。
 - (i) 家庭の安全点検
家庭の防災安全化を図るため、毎月7・20日を防火・防災点検日とし、次の項目について点検を実施する。
 - a 火気使用設備器具の整備、その周辺の整理整頓状況
 - b 可燃性危険物品等の保管状況
 - c 消火器等消火資器材の整備状況
 - d 災害報知用器具の整備状況
 - e 非常用持出品、非常用食料・飲料水の整備保管状況
 - f 転倒、落下危険のある家具等の安全整備状況
 - g その他建物内外の点検補修
 - イ 出火防止の徹底を図るため、次の事項を重点的に実施する。
 - (7) 地震のときは、まず火を消すとともに、「火を消せ」の呼びかけを徹底する。
 - (i) 家庭における火気使用器具（ガス器具、石油ストーブなど）の点検は、次の「防火の4チェック」を徹底する。
 - a 「場所は危険でないか」
 - b 「器具は安全か」
 - c 「使い方は正しいか」
 - d 「あと始末は安全か」
 - (2) 初期消火
地域内に火災が発生した場合、迅速に初期消火活動ができるようにするため、消火器、水バケツ等を配備するとともに、保守管理を徹底する。
 - (3) 初期消火活動の連携
火災の状況により他の近隣地域自主防災会等間と連携する。
- ## 9 救出救護
- (1) 救出救護活動
建物の倒壊、落下物等により救出救護を要する者が生じたときは、ただちに救出救護活動を行う。この場合、現場付近に居合わせた者は積極的に協力する。
 - (2) 防災関係機関の出動要請
防災関係機関による救出救護が必要であると認めたときは、ただちに学区自主防災組織へ防災関係機関の出動を要請する。
 - (3) 医療機関への搬送

負傷者の状況等により、必要と認めたときは、医療機関又は防災関係機関の設置する応急救護所に搬送する。

10 避難誘導

(1) 避難計画

事前に避難計画書を作成し、円滑な避難体制に努める。【避難計画書（例）】

(2) 災害の発生したとき又はそのおそれのあるときは、人員の確認などを行うとともに、避難の必要があるときは、全員が混乱なく安全に避難できるよう誘導する。

(3) 防災関係機関から避難の勧告や指示があったときは、その指示に従って避難場所へ誘導する。

11 給食給水

(1) 給食給水計画

自主防災組織による独自の食料・飲料水等の調達及び被災者への供給、不足物資の把握と供給の要請、物資の受け入れと被災者へ供給、炊き出しの実施等について、計画を策定する。

(2) 個人備蓄の啓発

災害時における自らの生活確保のため、市民自らの食料・飲料水、生活必需品の備蓄を呼びかける。

(3) 避難場所等における給食及び給水は、次のとおり行う。

ア 給食の実施

食料等の配分、炊き出し活動

イ 給水

水道、井戸等により確保した飲料水又は生活用水による給水活動

(4) 給食等物資の調整

避難者の物資需要を把握し、物資配布を行うとともに、学区自主防災会へ需要状況を報告し、物資の確保に努める。

12 要配慮者対策

(1) 要配慮者対応計画

要配慮者の対策は、日常的な安全対策やケア体制が重要であることから、要配慮者と地域住民とが日頃から信頼関係を作り、防災対策、支援体制について計画を策定すること。

(2) 要配慮者の把握

災害時に要配慮者の避難活動を円滑に行うため、日頃から要配慮者の状況を把握し、学区自主防災会等と連携を取りあって定期的に更新する。

なお、個人情報については、細心の注意を払うこととする。

(3) 要配慮者の避難誘導、救出・救護

ア 一人の災害時要援護者に対して複数の住民による援助活動を行う。

イ 災害時の避難誘導と安否確認については、民生委員・児童委員や近隣でのその要配慮者と顔見知りの人たちで体制を組み活動を行う。

ウ 専門的な介護は、介護技術を備えたホームヘルパーなどが中心になって活動を行う。

13 避難所の運営

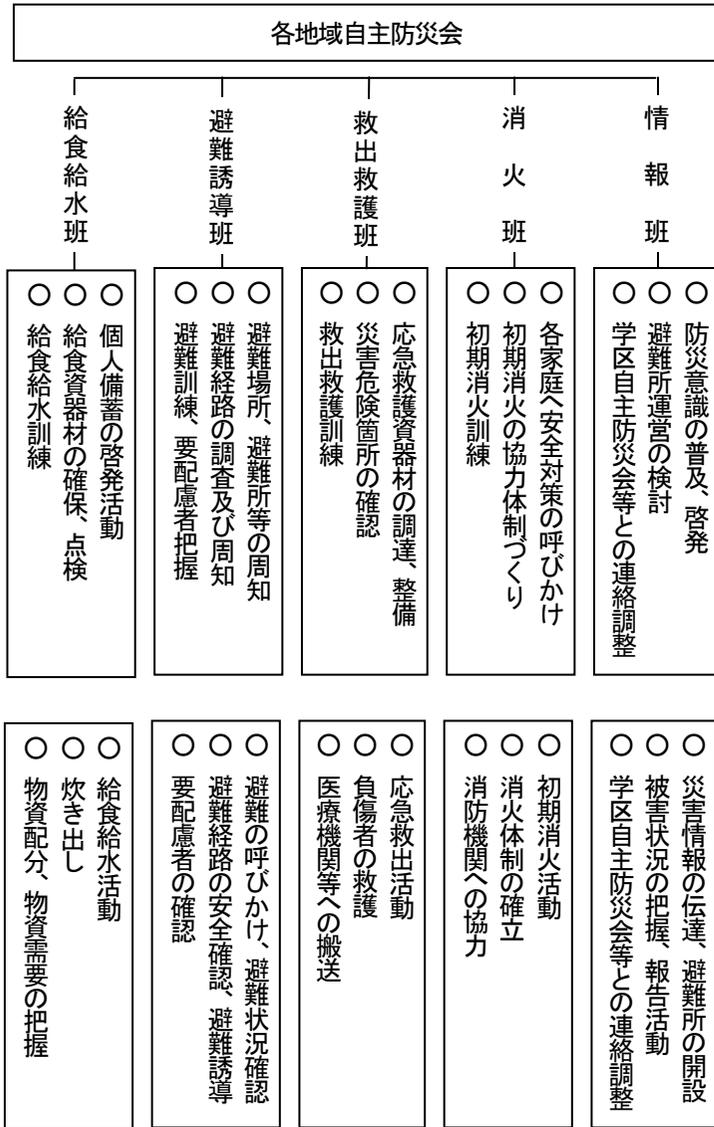
避難所の確保・運営については、避難所となる施設の管理者との連携のもとで、被災者が自ら避難所を管理・運営する体制を目指し、その運営方法について検討を行い、特に学区自主防災会との連携調整を行う。【避難所運営計画（例）】

14 防災資器材の整備等

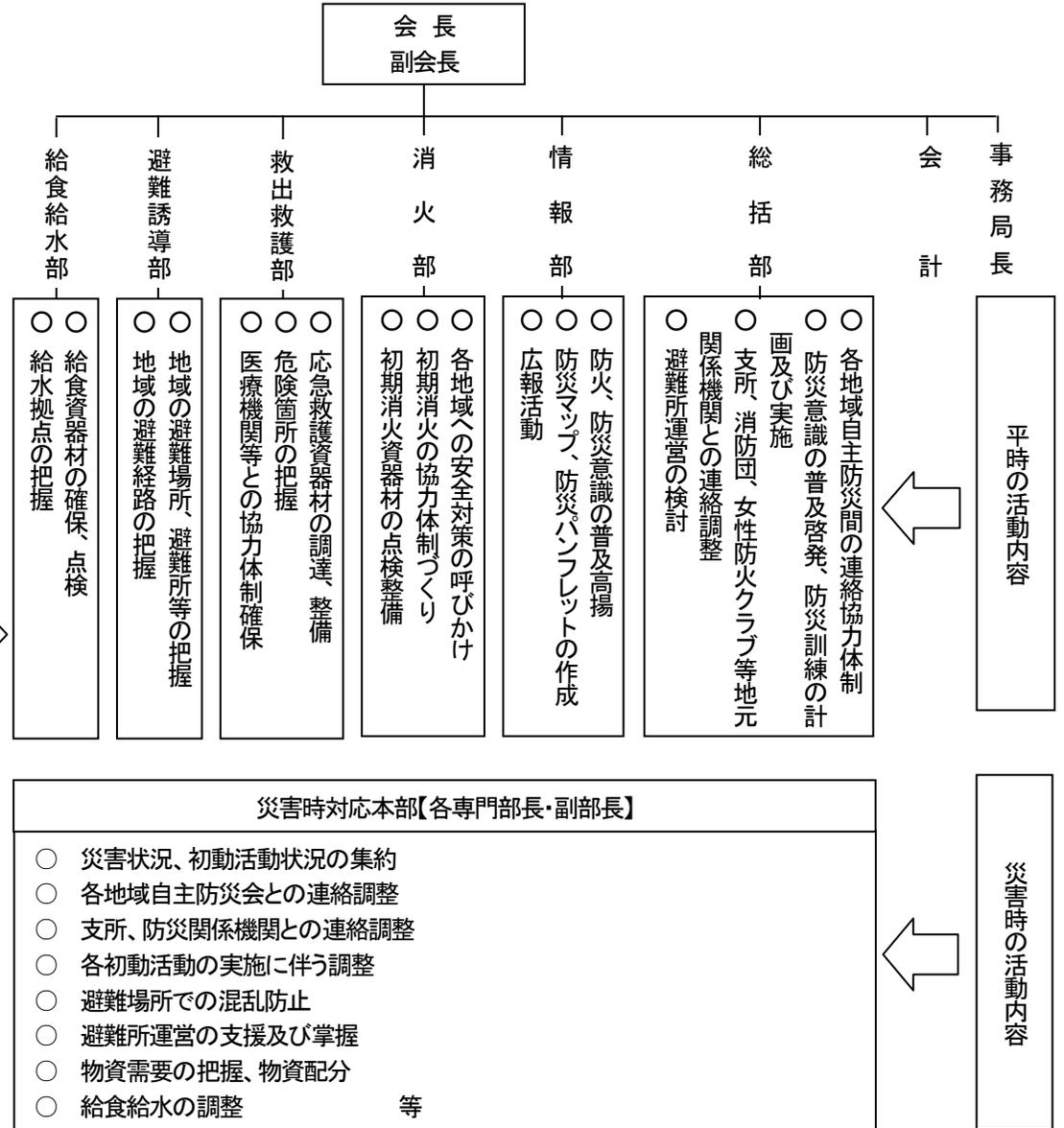
火災等の災害予防及び災害応急活動に必要な資器材の整備、保守管理等に努める。【資器材配備計画（例）】

【編成図(例)】

地域自主防災会



学区自主防災会



【避難計画書(例)】

避難計画書

1 地域避難場所の概要

避難する団体 (組、班等)	地域避難場所名	地域避難場所住所	対象世帯数	対象人員

2 避難場所、広域避難場所の概要

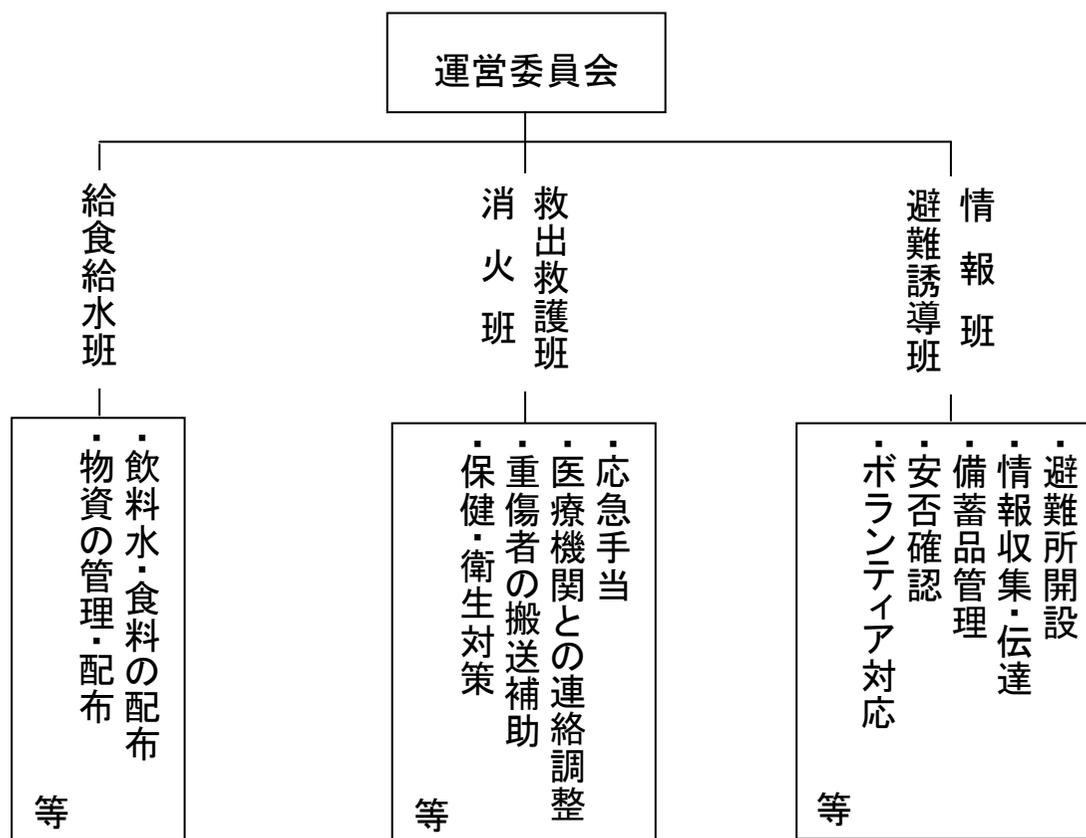
種 別	名 称	面 積	収容人員 (1 m ² =1 人)

3 避難所の概要

種 別	名 称	面 積	収容人員 (1.6 m ² =1 人)

【避難所運営計画(例)】

- 委員会の名称 : ○○○避難所運営委員会 (※2以上の地域自主防災会で運営するため、委員会を編成する。)
- 代表者 : ○○○○ (○○地域自主防災会会長)
- 副代表者 : ○○○○ (○○地域自主防災会会長)
- 構成メンバー : ○○○地域自主防災会、○○○地域自主防災会



※ 班構成、構成員は実情に応じて振り分けるものとする

【資器材配備計画表(例)】

資器材配備計画表

区 分	品 名	数量	設置場所	備 考
初期消火用資材等	水バケツ	5 個	各家庭	災害時持参契約済み
	消火器	5 本	各家庭	災害時持参契約済み
救助用資材等	ジャッキ	3 台	各家庭	災害時持参契約済み
	のこぎり	3 本	各家庭	災害時持参契約済み
	かけや	2 本	自治会館内	
	スコップ	2 本	各家庭	災害時持参契約済み
	ロープ	2 本	自治会館内	
	大ハンマー	2 本	自治会館内	
	大バール	2 本	各家庭	災害時持参契約済み
	はしご (8m 伸縮)	1 台	各家庭	災害時持参契約済み
	救急セット	1 式	自治会館内	
リヤカー	1 台	各家庭	災害時持参契約済み	
情報伝達用資材等	電池メガホン	2 台	自治会館内	
	強力ライト	3 台	自治会館内	
避難生活用資材等	給水ポリ容器	5 個	自治会館内	
	発電機	2 台	各家庭	災害時持参契約済み
そ の 他	コードリール	2 台	各家庭	災害時持参契約済み
	ブルーシート	5 枚	自治会館内	